

「家読（うちどく）」のすすめ

9月6日（火）、7日（水）の2日間、下条学園「むつみ子ども園」で家族参観日がありました。その際、家族の方々向けに「家読のすすめ」という題で40分ほどのお話をしました。その内容をお知らせします。

（1）読書の効用

「楽しい読書出前授業」で、子どもたちに読書の効用について、

①言葉を知る。 ②頭が良くなる。 ③心が育つ。 ④世界を知る。

と伝えています。そのことをお話ししました。

（2）家読とは？

「家読」は、「家族ふれあい読書」の略語（造語）で、家族みんなで読書をすることで「家族のコミュニケーション」を深めることを目的とした読書運動のことです。この運動が提唱された背景には、電子ゲームやインターネット、携帯電話からスマホへと子どもたちを取り巻くメディア環境が著しく変化し、メディア漬けになった子どもたちの心は不安定な状態になったり、家族との会話が少なくなったりしたという現代の社会的問題があります。その問題解決のために、読書という方法で和やかな家庭環境をつくり、家族のコミュニケーションを図ることで「家族の絆」を深めようという提案型読書運動のことを「家読」といいます。

（3）「家読」のよさ

全国組織の「家読プロジェクト」のホームページには、「家読のよさ」を次の7つにまとめています。

- ①家庭での過ごし方を見直すことができる。
- ②テレビの見過ぎ、ゲームのし過ぎに気を配るようになる。
- ③親子のコミュニケーションの場を確保できる。
- ④読書を習慣化できる。
- ⑤親が子に、生き方などを教える機会ができる。
- ⑥話のテーマに触れ、親自身が学習する。
- ⑦家庭内の言葉が磨かれていく。

（4）「家読」のやり方

「家読」のやり方は、子どもを中心に家族で同じ本を読み、読んだ本の感想を話し合うものです。読む本は自由ですが、私は「絵本」をすすめたい。絵本ならば短時間で家族全員が読むことができ、絵の印象や物語の感想など、語り合う話題に多様性があるから。また小さなお子さんから世代を問わず家族全員で、それもページを開きながら、ページごとに感じたことを語り合うことができます。大人が絵本に親しむこともその人の人生を照らしあう等、大切な意味を絵本は教えてくれます。「絵本を家族みんなで楽しむ」…それが「家読」だとも言えます。一緒に読むのもいいし、順番に読むのもいいし、読み聞かせをするのもいい…やり方にきまりはありません。

ノンフィクション作家の柳田邦男さんは、

「子どもに読書の習慣を身につけさせることは、一財産を残すよりも価値がある。」

と言っています。幼いうちから本を身近に感じる環境をつくることはとても重要です。そのためには、「家読」は、とても効果があります。しかし、「家読」だから家庭に全てお任せ…では、定着は難しいです。学校では、本の紹介や貸し出しなどを積極的にいき、子どもたちが本に興味をもつような取組が必要です。

